

企業ニュース セリア

(東証JASDAQ : 2782) <http://www.seria-group.com/>

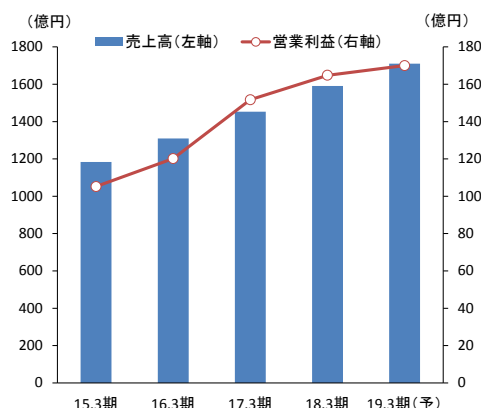
作成者: 荒木晶子

岐阜を地盤に全国展開する100円ショップ

1987年設立。100円ショップを全国展開している。業界に先駆けてリアルタイムPOSシステムや、独自の発注支援システムを導入するなど、ITを活用した効率的な店舗運営が強み。19.3期はセルフレジの導入や物流網の改善に取り組むなど、さらなる合理化を進めて利益率の向上を図る。店舗数は1,546店(2018年9月末時点)。

18.3期の下期は、直営既存店売上高が前年同期を大きく下回った。悪天候のほか、発注支援システムの不具合で品ぞろえが最適化されず、客足が遠のいたとみられる。システムトラブルの影響は19.3期の上期まで続いたが、足元では解消したようで、直営既存店売上高が堅調に推移している。今後の売上成長の回復に期待したい。

◇売上高と営業利益の推移



(出所) セリア資料よりCAM作成

下期は直営店既存店売上高が回復する見込み

19.3期・第2四半期累計(4-9月)の業績は、売上高が834億円、前年同期比7%増、営業利益が79億円、同2%減。計画に対して売上高で2億円、営業利益で4億円の未達となった。直営既存店売上高は前年同期比0.7%減となり、ほぼ計画線だった。地代家賃や給与手当など販管費が想定以上となり、営業利益を押し下げた。

19.3期の通期会社計画は、売上高が1,710億円、前期比7%増、営業利益が170億円、同3%増。下期計画を保守的に組んでいたことや、足元の売り上げが堅調に推移しているとの判断から、期初の通期計画を据え置いた。下期の直営既存店売上高は前年同期比1.3%増を見込んでおり、10月は前年同月比1.5%増と良いスタートを切った。店舗運営の効率化を図るため、10月25日、茗荷谷店(東京都)にセルフレジを導入した。同店で効果が見られれば、今後は都心部を中心に50店への導入を検討しており、店舗の生産性改善に貢献しよう。

[株価動向・投資判断]

売上成長の鈍化が懸念されて株価は下落したが、足元の堅調な直営既存店売上高を受けて再び上昇に転じよう。中長期では、業務効率化による利益成長が期待できよう。

<2782 セリア 業績:日本基準・非連結>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	145,328 (11)	15,171 (26)	15,218 (26)	10,533 (32)	277.8	40.00
18.3	159,114 (9)	16,479 (9)	16,500 (8)	11,316 (7)	149.2	30.00
19.3 予	171,000 (7)	17,000 (3)	17,000 (3)	11,700 (3)	154.3	50.00

(注)17年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2018/11/26)	4,760 円
年初来高値(高値日)	7,390 円(18/1/9)
同 安値(安値日)	3,495 円(18/10/29)
予想 P E R (19.3 予)	30.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	824.1 円
P B R	5.78 倍
予想配当利回り	1.05 %
(1株当たり配当金50.00円)	
R O E (18.3)	20.7 %
発行済み株式数	7,584 万株